

ほうさ 第16号

1984年1月 名古屋市蓬左文庫 Nagoyashi Hôsabunko

展示图』り

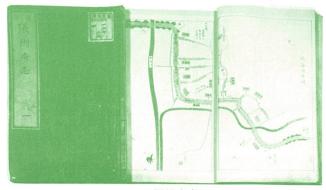
郷土の地誌と古地図展

1.7(土)~1.29(日)

本文庫の前身が旧尾張藩文庫であった関係上、郷土尾張の資料は、その種類も数量も豊富であるが、 今回の展示では、古い地誌と地図の一部、合計36種を組み合わせてご紹介する。

まず、地誌としては「張州府志」30巻、「張州雑志」100巻、「尾張徇行記」39巻、「尾張志」60巻などの大作があり、「張州雑志」は別として、その他はいずれも尾張藩撰もしくはこれに準ずるもので、出陳の書は、すべてその原本である。これよりさき、古くは奈良・平安時代に諸国から朝廷に撰進された「風土記」のうちには「尾張風土記」もふくまれ、その残欠本と称するものも伝わってはいるが、これは後世の偽作とされているので省除した。ちなみに「張州」も「尾州」も同じ意味であるが、「張州」はいずれかといえば漢学者ごのみの文字で、一般的には「尾州」が用いられている。

さて、尾張藩主三世の綱誠(つななり・つなのぶ)のとき、新しく「尾張風土記」の編修が企画され、そのスタッフには、当時、博学随一といわれた天野信景(さだかげ)や名古屋東照宮の神官でこ



▲張州府志



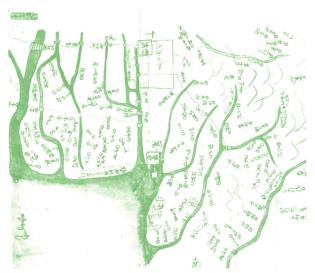
▲尾張志

れもすぐれた国学者の一人吉見幸和らが選ばれた。尾張藩も三代目を迎えて藩政の基礎が定まったのを機会に、領内の実状を地理的・歴史的にくわしく把握する意図もあったと思われる。しかし、元禄12年(1699)綱誠が在職わずか6年間で病死したため、この事業も中断を余儀なくされた。その理由は、後継ぎの吉通が幼く、また、側近の士も変わったからであろう。とはいえ、全く廃絶におわったわけではなく、のちに、やはり当代の碩学松平秀雲(君山)に引きつがれ、およそ50年後の宝暦2年(1752)に完成した。それよりさらに90年あとの天保15年(1844)に成った「尾張志」は、この「府志」をふまえてさらにくわしく記述され、また「府志」が漢文を用いているのに対し、平易な和文に改めるなど、時代の推移がうかがわれる。同じ頃、絵図を主とした一般向きの「尾張名所図会」も、富裕で好学の商人野口梅居の出資によって刊行された。これらの中間に位置する「張州雑志」は、明和・安永・天明年間(1764-88)の藩士内藤東甫のライフ・ワークで、自筆の彩色画およそ一千枚をふくむ図鑑的地誌として、史料的価値と共に美術的価値も高い。

以上の地誌類と趣きをことにするものに「尾張徇行記」がある。文政年間 (1818-30) 前後に、藩の大代官 (司農監)を長く勤め、のちに書物奉行にも任命された樋口好古の大著で、郡別・村別に重要な事項が整然と詳記され、地方 (じかた) 行政資料としても「寛文村々覚書」(徳川林政史研究所蔵)とならんで最も基本的なものとの定評がある。そのほか「名護屋見物・四編綴足」 (しへんのとじたし) なども、本来はいわゆる滑稽本に属する戯作であるが、名古屋の町をおもしろおかしく紹介した異色の地誌として加えた。

次に地図では、尾張の国絵図、諸郡の図、名古屋城下図を中心とし、城絵図も多少は添えた。諸郡の図は、「尾張志」の原本にのみ付属する小田切春江筆の正確で鮮明なものもあるが、これらは江戸末期の作で、すでに2、3回展示した例もあるから、今回はそれらより百数十年古い正徳・享保頃の古図をえらんだ。なお、城下の図や古城の図もひじょうに多いが、会場の都合で、なるべく小型のものに限定せざるをえなかった。本文庫所蔵の地誌や古地図の詳細については、閲覧室備えつけの「蓬左文庫国書分類目録」のうちの「尾張資料」の部および「古文書古絵図目録」などを参照していただきたい。

付記。本文庫の蔵書以外にも、さきに挙げた「寛文村々覚書」などのほか「蓬州旧勝録」23巻(徳川林政史研究所蔵)「金鱗九十九之塵」99巻(含笑寺および鶴舞中央図書館蔵)などの大作があり、藩撰・私撰おしなべて尾張地誌の数はおびただしく、質もまた高い。総合的な地誌の編修には、多くの時日と経費、さらにすぐれたスタッフをも必要とするから、これらは江戸時代における尾張の文運がさかんであったことを示す一つの例証といえる。



尾州爱知郡図

「郷土の地誌と古地図展」出品目録

〈地誌〉

1. 張州府志			
松平秀雲・千村伯済 江戸中期写 (原本)			
30巻付図 1 巻16冊			
2. 張州雑志			
内藤正参 江戸中期写(原本)100巻100冊			
3. 尾張徇行記			
樋口好古 江戸末期写 (39巻の内)9冊			
4. 尾張志			
深田正韶等 天保15年写(原本)			
60巻目録1巻61冊附図14枚			
5. 尾張名所図会(前編)			
岡田啓・野口道直等編			
小田切春江・森高雅等画 江戸末期刊			
7 巻 7 冊			
6. 尾張名所図会(後編)			
司			
明治13年刊 6巻6冊			
7. 小治田真清水〔尾張名所図会附録〕			
岡田啓 昭和5-8年刊 8巻6冊			
8. 蓬州旧勝録(抄)			
嘉永6年写 2冊 9、尾張大根「尾張名所記」			
(1) (1) (1) (1) (2) (2) (2) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4			
10. 八郡游覧資			
中村蕃政著 細野忠陳補 天保9年写 1冊			
11. 尾張名勝志			
伊董随庸 江戸末期写 4 卷 4 冊			
12. 尾陽寛文記			
立錐軒如儂 写〔江戸〕 1冊			
13. 尾陽案内〔観音街道独案内〕			
桃亭鶖溪著 中雄画 写(文化4年序)			
2 巻 1 冊			
14. 尾張名所松炬島 江戸中期写 1冊			
15. 厚覧草 写〔江戸〕 1 冊			
16. 古渡志 宝暦10年写 1 冊			
17. 名古屋町名附 写〔江戸〕 1冊			
18.			
東花元成 文化12年刊 2巻2冊			
18'. 見物 四編之綴足 後編			
冬瓜元成 文化13年刊 2冊			

〈古地図〉

19.	尾張八郡図	
	江戸中期写	1 軸
20.	尾張国 (尾張志附図)	
	小田切春江筆 天保15年写	1枚
21.	尾州愛知郡図	
	江戸中期写	1 枚
22.	尾州春日井郡図	
	江戸中期写	1枚
23.	尾州海東・海西二郡図 上・下	
	江戸中期写	2 枚
24.	知多郡之図	
	江戸中期写	1枚
25.	尾州丹羽・葉栗二郡図	
	江戸中期写	1枚
26.	尾州中島郡図	
	江戸中期写	1枚
27.	名古屋城下明細図	
	江戸末期写	1 冊
28.	名古屋城下図〔熱田・枇杷島共〕	
	江戸末期写	1 冊
29.	名古屋図	
	高力全休庵筆 明治2年写	1 冊
30.	名古屋割絵図	
	江戸末期写 (外題徳川慶勝筆)	13折
31.	名古屋村古図	
	写〔江戸〕	1 枚
32.	知多郡篠島・日間賀島之図	
	写〔江戸〕	1 枚
33.	春日井郡清須古城之図	
	写〔江戸〕	1 枚
34.	春日井郡小牧村古城之図	
	写〔江戸〕	1 枚
35.	愛知郡星崎村古城之図	2.0
0.0	写〔江戸〕	1 枚
36.	名古屋城普請丁場割之図	a 20
	写〔江戸〕	1 軸

蓬左文庫の蔵書印 その12.「蓬左文庫」印 織 茂 三 郎 このシリーズも12回を重ねるに至った。これですべてを尽くしたわけではないが、主要なものはひとわたり挙げたので、今回をもって一応終らせていただく。他日、多少テーマを変えて再掲の機会を作りたいと思う。

さて、最後に登場するのは現在の「蓬左文庫」印である。これには、たて・よこ共に37mmの方形と、たて35mm・よこ9mmの長方形との二種があり、原則

として、前者は新古を問わず一般の書籍に、後者は一枚ものの絵図や文書類にもちいられ、いずれも木製で、長方形のは己巳(昭和4年)、方形のは庚午(同5年)の刻銘がある。(この年代は、蓬左文庫公開の準備期にあたる。)文庫名の「蓬左」が名古屋の古名(雅名)で、江戸前期から学者や文人の間にひろく行われ、「芭蕉七部集」中の「曠野(あらの)」の序文(元禄2年)中に「尾陽蓬左」云々とあるのが文献上の初見、また、名古屋城が「蓬左城」の別名をもち、これが本文庫発祥の地であることは、たびたび述べてきたところであるが、あらためて再録しておきたい。なお「蓬左文庫」の名付け親は、尾張徳川家十九世の義親氏、その時期は大正元年、これはのちに筆者が直接うかがったお話であるが、当時、東大国史科を卒業後まもなくとのことで、義親氏はその頃から文庫公開の意志をもたれたらしく、従来、単に「御文庫」と呼ばれていたのに、初めて「蓬左」という固有名詞を付けられたのは、外部に対してもその存在を明らかにする必要からであろう。「これにはずいぶん苦心したよ。ひと晩中、ほとんど眠らずに考えたものだ。」というのが義親氏の述懐であった。ちなみに、紀州家の「南葵文庫」は東京・麻布(現港区)に、水戸家の「彰考館文庫」は水戸市にあって、すでに開館されていたと思う。南葵文庫はなかなか立派な欧風建築で、私も中学時代(大正末年)

に、その門前を数回通った記憶がある。

それはさておき、翌大正2年、植松安氏 (元東大司書官、台北帝大教授)によって 「蓬左文庫図書目録」が編集され、徳川家 から出版された。内容・体裁ともに簡素な がら、これが印刷による本文庫目録の第1 号である。







「蓬左文庫」印記



蓬左文庫の蔵書群-5-

〈小酒井不木文庫〉

小酒井不木(本名光次、医学博士。1890~1929)は愛知県蟹江町出身で、愛知県立第一中学校、第 三高等学校、東京大学医学部を卒業後、欧米留学を命ぜられ、東北大学助教授から教授に進んだ。し かし病気により退職を余儀なくされ、以来、文筆生活に入り、大正末期から昭和初期にかけて推理小 説の研究と創作の草分け的存在として活躍した。専門の医学知識を駆使した彼の著作は、勃興期にあ った日本推理小説界に大きな影響を与え、江戸川乱歩をはじめ、横溝正史ら、多くの人びとから師事 された。当時、名古屋の小酒井邸は、それらの作家やジャーナリストたちの来訪で賑わったといわれ る。代表作には「疑問の黒粋」「恋愛双曲線」、その他独自の研究論文や随筆を次々に発表し、その業 績は「小酒井不木全集」全17巻(昭和4年 改造社刊)に収められている。また、別に「不木句集」 1巻がある。

不木の旧蔵書は、昭和50年、未亡人の小酒井ひさゑ氏(瑞穂女子短期大学教授。昭和54年没)から 寄贈されたもので、洋書・和書・漢籍を問わず、専門の医学書・古典文学・推理小説等を中心とした コレクションである。現在では、資料の有効な利用を図るため、医学関係書は愛知医科大学図書館へ、 その他の洋書および洋装本は名古屋市博物館へ移管し整理が行われている。(愛知医科大学図書館で は既に目録作成済)

蓬左文庫には、主として近世の刊本約550点が収められており、次に挙げるような和漢の怪奇小説 や犯罪・裁判関係の資料によって特徴づけられている。(「蓬左文庫古文書古絵図目録」に付載)

宋・桂万栄撰 田沢校 江戸初期刊(古活字版) 3巻1冊

〔裁判物の説話集で、144条の物語を4字の韻字で記したもの。国文学への影響大〕

本朝桜陰比事 井原西鶴

元禄2年刊

5 巻 5 冊

〔「棠陰比事」の影響下に作られた裁判物。題材は仮名草子・狂言・実録等から採取〕

津阪孝綽(東陽) 天保2年刊

3 卷 3 册

[同じく「棠陰比事」にならった裁判物で、中国の書物から取材]

古今妖魅考 平田篤胤

江戸末期刊(天保2年序) 3巻3冊

[仏教批判の立場から、いわゆる「化物」の起源を考察したもの]

雨月物語 上田秋成

安永5年刊

5巻5冊

[江戸中期成立の読本で、和漢の古典をもとにした日本の怪異小説の名作]

三奉行問答

15.

2 #

[三奉行(寺社・勘定・町奉行)との問答を記した江戸後期の裁判集]

徳川幕府刑事図譜

写〔明治〕

1 吨

[江戸時代の捜査・拷問・処罰の模様を描いた図集]

出版物一覧

名古屋叢書三編第12巻(S.56年刊) 名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S.50年刊) 3.500円 3.000円 名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S.51年刊) 同 第8巻(S.57年刊) 3,000円 4.000円 同 第16巻 名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(同)2,500円 尾崎久弥コレクション目録第一~三集 一横井也有全集 上一(同) 3.000円 各 1.500円 第19巻 (S.52~55年刊) 一物品識名他三編—(同) 3.000円 名古屋叢書(正編)索引·総目録(S.53年刊) 2,000円 第17巻 名古屋叢書続編 索引(S.47年刊) 700円 一横井也有全集 中一(S.58年刊) 400円 3,000円 名古屋叢書続編総目録(S.44年刊) 第4巻 善本解題図録第一~三集(S.55年再版) 各 300円 同 一士林泝洄続編一(近 刊) 3.000円 日本の古典〈蓬左文庫図録〉(S.52年刊) 200円 堀田文庫蔵書目録(S.58年刊) 500円 蓬左文庫·源氏物語図録(S.53年刊) 300円 蓬左文庫図録(同) 1,500円 蓬左文庫所蔵古地図複製(S55~57年刊) 蓬左文庫絵葉書〈8枚組〉(同 300円 各 1.800円 No. 1 ~No.11

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

★「善本解題図録第四集」を今年中に刊行する予定です。

▷▷▷ 利 用 ご 案 内 ◁◁◁

▷開館時間 午前9時30分~午後5時

▶休 館 日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)

祝日 (日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館) 月曜 "月・火休館

年末年始(12月28日~1月4日)

▷閲 館内に限り、館外貸し出しはいたしません

(閲覧料)普通図書 無料

重要図書 有料(1部350円)

▷展 示 随時蔵書の一部を展示

(特別展を除き入場無料)

▶複写サービス 普通図書のうち、保存上影響のない

ものについて複写サービスを行います。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影の申請を受け付けます

ので、ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052)935−2173

(市バス 新出来町 北 100 m) 山 口 町 東 500 m)



「蓬左」第16号 ☆昭和59年1月7日発行 ☆編集・発行:名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)

☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷:大同印刷株式会社(東区泉2-3-18)